

12月10日は世界人権デー

「人権」について考えてみませんか



人権とは、人が人として尊重され、自由で幸福な生活を送るために欠かせない大切な権利です。偏見や差別のない社会の実現に向けてさまざまな取り組みが行われています。しかし、依然として世界各地では、人種差別や地域紛争に伴う人権侵害に関するニュースが後を絶ちません。

日本においても、子どもや高齢者、障害のある人等への虐待、女性への暴力、性的少数者や外国人等に対する偏見や差別、同和問題など、さまざまな人権問題が存在しています。

市では、渋川市人権教育推進協議会において、市民の人権尊重意識を高めるために、さまざまな取り組みを行っています。今回は、同協議会委員による寄稿文を掲載します。

詳しくは、**生涯学習課**(☎2500)へ。

〈市人権教育推進協議会委員の寄稿①〉 障害のある人への理解を

障害のある人の自立や社会参加が難しい状況は、今も続いています。その原因として考えられるのは、私たちの中で障害についての理解や配慮、思いやる心が不足していることではないでしょうか。私たちの誤解や偏見により、障害のある人が一歩踏み出す勇気が持てなくなり、社会参加が難しくなっているのではないかと考えます。

障害のある人、ない人に関わらず、誰もが社会の一員としてお互いを尊重し、支え合って生活できる共生社会を目指したいものです。例えば、駅や道で障害のある人が困っているときに、勇気を出して声を掛けてあげること、事故を防ぐことができると思います。普段何気なく点字ブロックの上を歩いていて、視覚障害者に気づかず、通行を妨げていないでしょうか。また、就職差別などの問題に対しては、障害者雇用の拡充を図ることや、個人の適性を生かした業務内容や環境づくり、一緒に働く人たちの理解が大切だと思います。

障害者基本法、障害者虐待防止法、障害者差別解消法などがあっても守ることができないのは、何に原因があるのでしょうか。障害のある人の人権を守るためには、障害者の立場になって体験してみることが大切と考えます。障害者の日や障害者雇用促進月間、各種イベントなどを通して、障害のある人との交流を体験し、理解を深めていきましょう。

〈市人権教育推進協議会委員の寄稿②〉 インターネットによる人権侵害

同和問題とは、日本社会の歴史的過程で形成された身分差別に起因する、人権問題です。一部の人々が、長い間、経済的、社会的、文化的に低い状態に置かれることを強いられたほか、特定の地域の出身であることなどを理由に、結婚や就職などで不当な差別を受け、自由と平等が侵害される不合理な人権課題です。

近年、不当な差別を助長・誘発するために、インターネット上で、特定の地域を同和地区である、またはあったと指摘するなどの事案も発生しています。パソコンやスマートフォンなどにより、インターネットは私たちにとって非常に身近なものとなりました。正しく使用すれば、大変便利なものですが、使い方を誤ると、他人を傷つけたり、自分に被害が及ぶこともあります。インターネットで情報発信を行うときは、**誹謗中傷**などの人権侵害につながる内容となっていないか十分考え、情報の受け手となる時も、発信源などから正確性や公平性に意識を向け、適切に判断・行動することを心がけましょう。

北朝鮮による拉致問題に関心と認識を深めましょう

12月10日(日)～16日(土)は「北朝鮮人権侵害問題啓発週間」です。

国民的な課題である拉致問題をはじめ、北朝鮮当局による人権侵害問題に対して、関心と認識を

深めましょう。また、北朝鮮による「拉致容疑事案」および「拉致の可能性を排除できない事案」に関する情報提供などにご協力をお願いします。

詳しくは、渋川警察署(☎230110)へ。